



ハウス内に電熱線を張り、ウドの軟化栽培をしています。もみ殻で光を遮っているため、普通に光を当てたものに比べると組織の分化が不十分で茎が軟らかく、また、葉緑素ができず白色になります。日本では江戸時代から既に行われていたようですが、幕府はウドなどの軟化栽培に対し、ぜいたくであるとして禁止令を出した記録があるそうです。



11月以降、電熱線を張ったハウス内で育てたアスパラです。アスパラガスは雄株と雌株が別々の雌雄異株という特徴があります。そして、雌株の方が雄株よりも芽を出す数が極端に少ないため、1本1本に養分が多く行き渡り、甘みや旨みが凝縮していると言われていました。雌株の穂先はしっかり閉じているという特徴から、左2本が雌で、右3本が雄と推察されます。



寒干しだいこんのカーテンです。カラカラに乾燥する完成まであと僅かです。元々保存食として作られるようになった寒干しだいこん。おでんのだいこんとは一味違った食感、そして、特有の甘みと旨みが料理の味を一層引き立たせてくれるので、最高の脇役と言っても過言ではないでしょう。

# San Farm Gallery 2017 Vol.11

三農の農場に生息する様々な植物や動物は、季節の移り変わりとともに姿や景色を変え、私たちの目を楽しませてくれたり、心をときめかせてくれたりします。San Farm Galleryでは、そんな農場の1コマを紹介します。  
三農農場部



トマトの苗をポットに移植しました。市場からも評価が高い三農の桃太郎です。3月中旬に定植予定ですが、播種して定植できるようになるまで約2ヶ月半を要するので、1月上旬に播種します。冬は仕事が少ないように見えるかも知れませんが、来年度に向けた準備が、既にあちこちで始まっているのです。



サイネリアが咲き始めようとしています。花言葉の「喜び」は、冬から春にかけて明るく華やかに咲くことに由来し、卒業式や入学式の会場を彩る花として活躍しています。葉がフキの葉に似た形で、サクラのようにカブを覆うように咲く様子から、フキザクラという和名が付けられています



パンジーが少しずつ咲き始めています。色は赤・ピンク・黄色・青・ブルー・白・ミックス・・・などなど、たくさんあります。なので、同系色で組み合わせたり、同じ色の濃淡（グラデーション）で組み合わせたり、反対色で組み合わせたりするなど、楽しみながら花壇をコーディネートできる花です。